

## 3-2. 調査結果・課題分析

### 地域医療における多職種連携教育実施状況 に係るアンケート調査結果・分析

「超高齢社会に向けて地域在宅における  
患者家族の療養生活を支える基礎的能力  
育成への看護系大学の取り組み実態調査」



## I. 研究の背景・目的

高齢社会の進展に伴い、疾患や障害を抱えて生活する人々の支援はその家族も含めて重要であり、看護基礎教育においても地域在宅支援に関連する能力育成を強化する必要がある。特に地域在宅支援については、看護職だけでなく、そこに係わるさまざまな多職種多機関との連携も重要である。

そこで、超高齢社会に向けて地域在宅における患者家族の生活を支える看護援助に関する、連携協働のあり方を含む教育の実態を明らかにするために、看護系大学を対象とする地域在宅における患者と家族の療養生活を支える看護援助（多職種多機関連携のあり方を含む）に対する教育の実際と課題に関するアンケート調査を実施した。

## II. 研究方法

### 1) 対象校および対象者

日本看護系大学協議会に加盟している217教育課程実施校を対象とした。アンケート回答者としては、学長、学部長、学科長、教務委員長等のうち、適任者を各大学で決めてもらうこととした。

### 2) 調査方法

日本看護系大学協議会のメール配信システムを用いたWeb調査とした。回答は記名（大学名のみ）とした。研究目的に示したように、各大学がアンケートに記名で答えることにより、自らの取り組みを振り返り、検討課題を見出し次の取り組みの方向性を考えることにつながることを期待することから、今回は記名式とした。

日本看護系大学協議会のメール配信システムを用いて、本研究の主旨および依頼文と回答者への依頼文および質問内容にアクセスできる URL を明記したメールを送信した。その際、質問内容にアクセスできるパスワードは、①のメールとは別途配信した。回答者として各大学で委託された人物が、URLより回答者への依頼文および質問内容にアクセスし、Web上にて回答をするよう言依頼した。回答をもって本研究に同意が得られたものとした。

### 3) 調査時期

平成25年10月～11月

### 4) 調査の枠組みと内容

調査の枠組みを図1に示す。調査の枠組みに基づいて、調査内容を具体化した。

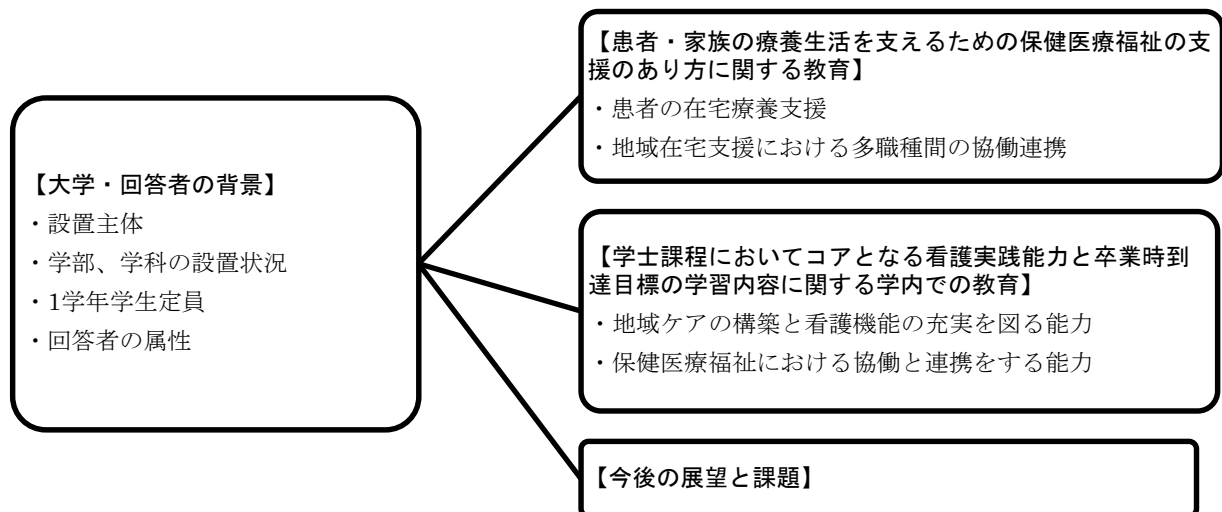


図1 調査の枠組み

#### 5) 倫理的配慮

- 本調査への回答は記名（大学名のみ）であるがプライバシーの保護は厳重に行う。
- データは連結可能匿名化処理をして集計した。ただし、集計後は、データは連結不可能匿名化されるため、分析処理後は回答が撤回できないことを依頼文および質問紙に明記した。
- Web 調査の過程で、他者による侵入、閲覧等が起きないように厳重に保護した。
- データ分析は日本看護系大学協議会の事務局職員および研究メンバーが行うこととし、回答内容は、研究メンバーおよび日本看護系大学協議会の特定の事務局職員のみが扱うこととした。
- 収集したデータおよび連結表は、研究期間中及び終了後において、日本看護系大学協議会事務局の鍵のかかる場所およびメディアにはパスワードによるロックをかけて保管にて行った。
- 本調査への協力、回答は自由意思によるものであり、協力の有無により不利益を被ることのないよう配慮した。
- 本調査結果は、文部科学省への報告書、日本看護系大学協議会の会員校への報告書等にて還元することを確約した。
- 本調査結果は、本研究プロジェクトに関連したシンポジウム（2013年12月開催）で公開するとともに、報告書にまとめ、日本看護系大学協議会のホームページ上で公開する予定であることを明記した。
- 本研究で得られたデータは、研究目的以外で使用することはない。
- 本研究は日本赤十字看護大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号 2013-75）。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 看護系大学への Web アンケート調査

##### 1) 回収率および回答者の属性

回収数および回収率を表 1 に、設置主体別回収数および回収率を表 2 に示す。全体としては70%の回収率であるが、私立大学の回収率が62.2%とやや少なかった。また、回答校における学部・学科の設置（表 3）をみると複数の学部をもつ大学が67.1%であった。回答者の内訳については、表 4-1、表 4-2 に示す。その他が多かったが、その内訳では在宅・地域・老年（高齢者）看護学担当教員がほとんどであった。

表 1 回収数および回収率

N=217	
回収数	152
回収率	70.0%

表 2 設置主体別回収数および回収率

	n	%	回収率 (%)	配布数
国立	33	21.7	78.6	42
公立	39	25.7	83.0	47
私立	79	52	62.2	127
厚生労働省立	1	0.7	100.0	1
合計	152	100	70.0	217

表 3 回答校における学部・学科の設置

	n	%
複数の学部をもつ	102	67.1
1学部で複数の学科をもつ	26	17.1
1学部、1学科である(単科大学)	24	15.8
合計	152	100

表 4-1 回答者の内訳

	n	%
学長	2	1.3
学部長	15	9.9
学科長	25	16.4
教務委員長	11	7.2
その他	99	65.1
合計	152	100

表 4-2 回答者におけるその他の内訳（複数回答あり）

内容	n
在宅看護学教授・准教授・教員	32
地域在宅看護学責任者・教授・准教授・教員	22
教授・准教授・教員	15
地域看護学教授・准教授・教員	12
学部長・学部専攻長・講座長・学科長・看護学専攻主任	8
老年看護学教授・准教授	3
外部調査等担当者（学科長代行）	2
教務委員	2
カリキュラム専門委員会委員長	1
連携推進部門長	1
卒業時到達度WG長	1
日本看護系大学協議会担当教授	1
災害看護学教員	1
健康生活支援看護学講座	1
社員	1

## 2) 「患者の在宅療養支援」に関する学習のねらい

表5は「患者の在宅療養支援」に関する学習のねらいを示したものである。これは、「学士課程教育においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」（「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会 最終報告」にて策定）の「IV群. ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力」のうち、15)と17)の学習成果として示された項目について、重点をおいている程度に対する回答である。

各項目とも「かなり重点をおいている」と「ある程度重点をおいている」と回答した大学が98%以上であり、「あまり重点をおいていない」と回答した大学はなかった。

表5 各目標に対する重点の程度（複数回答）

		かなり	ある程 度	わから ない	合計
地域で活動できる多様な集団やNPOなどの組織、及びそれらの活動について理解できる	n	29	106	1	152
	%	19.1	69.7	0.7	100
ケアのネットワーク、支援システムの構築方法について理解できる	n	57	88	0	152
	%	37.5	57.9	0.0	100
対象者に必要なケアについて、関連機関や支援者と連携・調整する方法について理解できる	n	93	58	0	152
	%	61.2	38.2	0.0	100
地域の健康を促進し、管理する方法について理解できる	n	69	73	2	152
	%	45.4	48.0	1.3	100
当事者グループの集団の特質や機能について理解できる	n	41	92	2	152
	%	27.0	60.5	1.3	100
地域における組織や当事者グループを看護専門職者として育成し、支援する意義や方法について理解できる	n	43	84	3	152
	%	28.3	55.3	2	100
地域における日常的な健康危機管理の重要性と看護の活動・役割について説明できる	n	60	82	1	152
	%	39.5	53.9	0.7	100
チーム医療、保健医療福祉チーム員の機能と専門性、チーム医療の中での看護の役割について説明できる	n	103	47	0	152
	%	67.8	30.9	0.0	100
チーム医療の中での責務として、情報の共有と守秘義務、対象者を中心とするチーム医療の構築方法について説明できる	n	90	59	0	152
	%	59.2	38.8	0.0	100
チーム医療の中での、相互の尊重・連携・協働について説明できる	n	99	53	0	152
	%	65.1	34.9	0.0	100
チーム医療の中での効果的な話し合いをするための方法について説明できる	n	60	75	2	152
	%	39.5	49.3	1.3	100
在宅医療を促進するために、保健医療福祉機関の連携・協働を含めた看護の活動役割について説明できる	n	92	57	0	152
	%	60.5	37.5	0.0	100
ケアマネジメントやチームの連携方法について説明できる	n	78	70	0	152
	%	51.3	46.1	0.0	100
継続看護、退院支援・退院調整など、地域の関連機関と協働関係を形成する看護援助方法について説明できる	n	90	55	0	152
	%	59.2	36.2	0.0	100
病院、保健所、市町村保健センター、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、診療所、学校、職場などとの連携の必要性について説明できる	n	91	60	0	152
	%	59.9	39.5	0.0	100
同僚や他の医療従事者と安定した適切なコミュニケーションをとる必要性を理解し、指導の下で実践できる	n	60	83	1	152
	%	39.5	54.6	0.7	100
チームの一員として、報告・連絡・相談の必要性を理解し、指導の下で実施できる	n	90	52	1	152
	%	59.2	34.2	0.7	100

### 3) 講義・演習において非常勤・特別講師で招聘している職種

「患者の在宅療養支援」に関する学習の中で、講義・演習において非常勤講師・特別講師として招聘している職種を表6-1に示す。

表6-1 講義・演習における非常勤・特別講師（複数回答）

		はい	いいえ	合計
医師	n	57	95	152
	%	37.5	62.5	100
歯科医師	n	6	146	152
	%	3.9	96.1	100
行政保健師	n	71	81	152
	%	46.7	53.3	100
地域包括支援センター保健師	n	26	126	152
	%	17.1	82.9	100
訪問看護ステーション看護師	n	103	49	152
	%	67.8	32.2	100
専門看護師	n	27	125	152
	%	17.8	82.2	100
認定看護師	n	40	112	152
	%	26.3	73.7	100
退院調整室/地域連携室等の看護師	n	46	106	152
	%	30.3	69.7	100
介護福祉士	n	2	150	152
	%	1.3	98.7	100
社会福祉士	n	13	139	152
	%	8.6	91.4	100
精神保健福祉士	n	9	143	152
	%	5.9	94.1	100
理学療法士	n	23	129	152
	%	15.1	84.9	100
作業療法士	n	16	136	152
	%	10.5	89.5	100
介護支援専門員（ケアマネージャー）	n	20	132	152
	%	13.2	86.8	100
薬剤師	n	12	140	152
	%	7.9	92.1	100
栄養士	n	12	140	152
	%	7.9	92.1	100
生活相談員	n	1	151	152
	%	0.7	99.3	100
患者・家族	n	44	108	152
	%	28.9	71.1	100
在宅医療に関する業者	n	44	108	152
	%	28.9	71.1	100
その他	n	26	126	152
	%	17.1	82.9	100
誰も招いていない	n	6	146	152
	%	3.9	96.1	100



最も多かったのが訪問看護ステーション看護師（67.8%）であり、次いで行政保健師（46.7%）、医師（37.5%）であった。その他については表6-2に示す。その他については、医療・福祉関係職種以外にもジャーナリストなど、さまざまな職種が挙げられていた。

表6-2 その他の内訳（複数回答あり）

招聘している職種	n
ケアセンターセンター長	1
地域包括支援センター長	1
元地域包括支援センター保健師	1
難病相談支援センター 保健師	1
産業保健師	1
元行政保健師	2
民間企業健康管理センター	1
企業看護師	2
へき地診療所看護師	1
養護教諭	1
認知症専門員	1
ジャーナリスト	1
言語聴覚士	2
音楽療法士	1
デイケア看護師	1
在宅療養機器取り扱い業者・介護福祉用具事業者	2
臨床工学士	2
歯科衛生士	2
MSW	1
NPO 法人の責任者	1
ボランティア協議会会長	1
準備中	1
地域住民	1

#### 4) 実習を行っている場

「患者の在宅療養支援」に関する学習の中で、実習を行っている場を表7-1に示す。最も多かったのが、訪問看護ステーション（98.0%）であり、次いで保健所（67.1%）、地域包括支援センター（61.8%）、介護老人保健施設（50.7%）であった。

表 7-1 実習を行っている場（複数回答）

		はい	いいえ	合計
病院：地域連携室や退院調整室	n	68	84	152
	%	44.7	55.3	100
病院：外来	n	62	90	152
	%	40.8	59.2	100
在宅主治医のいる診療所	n	25	127	152
	%	16.4	83.6	100
保健所	n	102	50	152
	%	67.1	32.9	100
グループホーム	n	37	115	152
	%	24.3	75.7	100
訪問看護ステーション	n	149	3	152
	%	98.0	2.0	100
地域包括支援センター	n	94	58	152
	%	61.8	38.2	100
介護老人保健施設	n	77	75	152
	%	50.7	49.3	100
特別養護老人ホーム	n	50	102	152
	%	32.9	67.1	100
その他	n	48	104	152
	%	31.6	68.4	100

その他の内訳については、表 7-2 に示す。居宅介護支援所、保健センター、デイケアサービス、通所介護施設などが挙げられた。

表 7-2 その他の内訳（複数回答あり）

実習を行っている場	n
居宅介護支援事業所	14
保健センター	8
デイサービス、デイケアサービス	6
通所介護施設	5
障害者施設	4
小規模多機能型ユニット	4
地域（自治体、町内会）	4
障害者自立訓練センター	3
企業（産業保健センター）	3
障がい者（児）支援施設	2
小中学校	2
ヘルパーステーション	2
病院の看護相談室	2
訪問看護ステーション	2
通所リハビリテーション	2
訪問入浴	2
介護福祉学習センター	2
療養型医療施設	2
作業所	2
特別支援学校	2
地域住民運営によるサロン	2
社会福祉協議会	2
保育所	2
地域活動支援センター	2

### 5) 実習において学生の指導を担当する職種

「患者の在宅療養支援」に関する学習の中で、実習において学生の指導を担当する職種を表8-1、その他に挙げられた指導者を表8-2に示す。

表8-1 実習での指導者（複数回答）

		はい	いいえ	合計
医師	n	44	108	152
	%	28.9	71.1	100
歯科医師	n	5	147	152
	%	3.3	96.7	100
行政保健師	n	98	54	152
	%	64.5	35.5	100
地域包括支援センター保健師	n	86	66	152
	%	56.6	43.4	100
訪問看護ステーション看護師	n	149	3	152
	%	98.0	2.0	100
専門看護師	n	21	131	152
	%	13.8	86.2	100
認定看護師	n	46	106	152
	%	30.3	69.7	100
退院調整室/地域連携室等の看護師	n	59	93	152
	%	38.8	61.2	100
介護福祉士	n	49	103	152
	%	32.2	67.8	100
社会福祉士	n	51	101	152
	%	33.6	66.4	100
精神保健福祉士	n	21	131	152
	%	13.8	86.2	100
理学療法士	n	55	97	152
	%	36.2	63.8	100
作業療法士	n	40	112	152
	%	26.3	73.7	100
介護支援専門員（ケアマネージャー）	n	102	50	152
	%	67.1	32.9	100
薬剤師	n	13	139	152
	%	8.6	91.4	100
栄養士	n	17	135	152
	%	11.2	88.8	100
生活相談員	n	19	133	152
	%	12.5	87.5	100
患者・家族	n	39	113	152
	%	25.7	74.3	100
在宅医療に関する業者	n	12	140	152
	%	7.9	92.1	100
その他	n	13	139	152
	%	8.6	91.4	100

最も多かったのが、訪問看護ステーション看護師（98.0%）であり、次いで介護支援専門員（67.1%）、行政保健師（64.5%）、地域包括支援センター保健師（56.6%）であった。

表 8-2 その他の内訳（複数回答あり）

	N
実習指導者	
介護老人保健施設の看護師	2
特別養護老人ホーム看護師	2
自治会長(町内会長)	1
非常勤講師	1
特別支援学校の先生、養護教諭	1
介護福祉士	1
保育士	1
助産師	1
精神保健福祉士	1
デイ・介護相談員	1
元行政保健師経験者	1

#### 6) 「患者の在宅療養支援」をねらいとする教育に携わる教員の構成

「患者の在宅療養支援」に関する教育に携わる教員の構成を表 9-1、表 9-2、表 9-3 に示す。「地域看護学もしくは在宅看護学の教員だけで実施している」が 50.7%であり、「他の領域も協力・分担している」が 49.3%で、ほぼ半数であった。協力・分担している領域としては、老年看護学が最も多く、41.4%であった。

表 9-1 教育に携わる教員の構成

	n	%
地域看護学もしくは在宅看護学の教員 だけで実施している	77	50.7
他の領域も協力・分担している	75	49.3
合計	152	100

表 9-2 協力・分担している他の領域

他の領域		はい	いいえ	合計
基礎看護学	n	17	135	152
	%	11.2	88.8	100
成人看護学	n	26	126	152
	%	17.1	82.9	100
老年看護学	n	63	89	152
	%	41.4	58.6	100
小児看護学	n	21	131	152
	%	13.8	86.2	100
母性看護学	n	15	137	152
	%	9.9	90.1	100
精神看護学	n	29	123	152
	%	19.1	80.9	100
その他	n	16	136	152
	%	10.5	89.5	100

表 9-3 その他の教員の内訳（複数回答あり）

領域等	n
看護管理学の教員	3
公衆衛生看護学の教員	2
全教員	2
在宅医療担当の教員（医師）	1
機能看護学の教員	1
社会福祉学の教員	1
非常勤講師	1
他学科の教員（作業療法士、言語聴覚士）	1

### 7) 職種間連携の学習機会の有無

職種間連携の学習機会の有無について、表10に示す。「学習機会を設けている」と解答した大学が80.9%であった。

表10 職種間連携の学習機会の有無

	n	%
学習機会を設けている	123	80.9
学習機会を設けていない	27	17.8
無回答	2	1.3
合計	152	100

### 8) 協働連携の学習機会の方法

協働連携の学習機会の方法について、表11に示す。「実習で多職種間の協働連携の具体的な場面を見学する機会をつくっている」が最も多く、88.6%の大学が設けていると解答しているが、「同大学の医系の他学科と共同で授業を行っている」、「訪問看護に限らず、小児や精神な、さまざまな領域における共同連携について工夫している」はほぼ4割の導入であり、「他大学の医系の学科と共同で授業を行っている」は5.7%に過ぎなかった。

表11 協働連携の学習機会の方法（学習機会を設けている大学のみ／複数回答）

		はい	いいえ	合計
同大学の医系の他学科と共同で授業（講義・演習等）を行っている。	n	48	75	123
	%	39.0	61.0	100
他大学の医系の学科と共同で授業（講義・演習等）を行っている。	n	7	116	123
	%	5.7	94.3	100
実習で多職種間の協働連携の具体的な場面を見学する機会をつくっている	n	109	14	123
	%	88.6	11.4	100
訪問看護に限らず、小児や精神など、さまざまな領域における協働連携について工夫している	n	46	77	123
	%	37.4	62.6	100
その他、協働連携の学習機会を作っている	n	33	90	123
	%	26.8	73.2	100

### 9) 学習機会を設けていない大学の理由

職種間連携の学習機会を設けていない大学におけるその理由について、表12-1に示す。「必要性を感じているが、実施が困難であった」が85.2%で最も多かった。必要性を感じているが、実施が困難であるとした理由の自由記載については、表12-2に示す。カリキュラムの確保や調整の問題、人材不足などが挙げられた。

表12-1 職種間連携の学習機会を設けていない大学の理由

	n	%
学士課程での学習の必要性を感じていない	3	7.4
必要性を感じているが、実施が困難である	23	85.2
無回答	1	3.7
合計	27	100

表12-2 実施が困難な理由（複数回答あり）

理由	n
カリキュラムの確保、調整の問題	6
今後設ける予定	4
人材不足	2
看護の単科大学であるため	2
新設校のため	2
実習場所により設定されているが、全体として徹底されていない	1

### 10) 授業に含まれている学習内容

「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標で示された学習内容」が授業（講義・演習・実習）に含まれているかについて、表13に示す。ほとんどの項目が90%以上であった中、「カンファレンスの運営方法」が79.6%、「支援システムの構築」が84.9%、「地域ケアの体制づくり」が86.8%、「地域組織活動」が87.5%、「ケアネットワークづくり」が88.2%であった。



表13 授業に含まれている内容（複数回答）

		含まれている	含まれていない	無回答	合計
チーム医療	n	151	0	1	152
	%	99.3	0.0	0.7	100
保健医療福祉チーム員の専門性と相互の尊重	n	151	0	1	152
	%	99.3	0.0	0.7	100
チームのなかでの看護専門職の役割	n	151	0	1	152
	%	99.3	0.0	0.7	100
リーダーシップ	n	138	13	1	152
	%	90.8	8.6	0.7	100
カンファレンスの運営方法	n	121	30	1	152
	%	79.6	19.7	0.7	100
情報の共有	n	150	1	1	152
	%	98.7	0.7	0.7	100
継続看護	n	150	1	1	152
	%	98.7	0.7	0.7	100
在宅医療と社会制度	n	148	2	2	152
	%	97.4	1.3	1.3	100
在宅医療推進と看護活動	n	147	4	1	152
	%	96.7	2.6	0.7	100
保健医療福祉機関の連携・協働	n	150	1	1	152
	%	98.7	0.7	0.7	100
ケアマネジメント	n	148	3	1	152
	%	97.4	2	0.7	100
家族を含めた対象者中心の連携	n	150	1	1	152
	%	98.7	0.7	0.7	100
退院支援・退院調整	n	143	8	1	152
	%	94.1	5.3	0.7	100
地域支援包括支援センターとの連携	n	142	8	2	152
	%	93.4	5.3	1.3	100
訪問看護ステーションとの連携	n	149	2	1	152
	%	98	1.3	0.7	100
地域保健・産業保健・学校保健との連携	n	139	12	1	152
	%	91.4	7.9	0.7	100
個人・グループ・機関との調整	n	137	13	2	152
	%	90.1	8.6	1.3	100
ケアネットワークづくり	n	134	17	1	152
	%	88.2	11.2	0.7	100
支援システムの構築	n	129	22	1	152
	%	84.9	14.5	0.7	100
地域組織活動	n	133	17	2	152
	%	87.5	11.2	1.3	100
地域ケアの体制づくり	n	132	18	2	152
	%	86.8	11.8	1.3	100

## 1 1) 自由記載の分析

### a) 患者の在宅療養支援に関する教育を実施する上での課題

自由回答を求めたところ、138校（90.8%）から回答が得られた。内容分析の結果を表14に示す。

表14 患者の在宅療養支援に関する教育を実施する上での課題

	具体的な内容	n
教員に対する課題	教員数不足・人材不足	31
	教員の経験不足・指導力の問題	7
	教員負担の増加	11
	人材のための予算	1
	教員間での教育内容の共有	1
カリキュラムに関する課題	在宅看護論の時間割	3
	在宅看護の教育時間の少なさ・内容の偏り	4
	講義・演習・実習時間の確保が不十分	13
教育内容の課題	限られた環境・時間内での教育内容を達成すること・教育力の向上	27
	学習内容の共有・効率化・工夫	12
	行政のもつデータの開示・共有が不十分であり教育内容に反映できない	1
学生指導に関する課題	個別指導の困難さ	9
	学生のイメージが付きにくい	10
	学生の社会性の体得と対象への理解	5
	統合カリキュラムであることで学生のモチベーションに問題がある	4
	臨床とは異なる在宅看護の場で学生理解を促す工夫	4
	学生が就職後も在宅看護への関心を維持すること	2
連携・協働への課題	他領域との連携・共通理解	22
	他機関・他職種との協働、連携	18
	地域連携	1
実習での課題	広範囲にわたる実習場所への対応が困難	16
	実習機会が限られている・内容が不十分	11
	実習場所・実習指導者の質の確保が不十分・偏りがある	34
その他	問題ない	6

「実習場所・実習指導者の確保が不十分・偏りがある」が最も多く、次いで「教員数不足・人材不足」、「限られた環境・時間内で教育内容を達成すること・教育力の向上」、「他領域との連携・共通理解」が挙げられた。

b) 超高齢社会に向けた地域在宅における患者と家族の療養生活を支えるための教育としての取り組み

自由回答を求めたところ、104校（67.1%）から回答が得られた。内容分析の結果を表15に示す。

表15 教育としての取り組み

講義内容の拡大・充実・工夫	家族看護学を組み入れる、家族介護
	地域包括ケアシステムの理解
	2025年問題の理解、在宅でのエンドオブライフの理解、看取り
	病院完結型ではなく、地域完結型の見方の強調
	認知症ケア論等の科目設定
	社会情勢、社会保障政策等の幅広い理解をもとに、在宅看護へ
	健康増進、介護予防
地域連携・事業展開・多職種連携	大学内に、地域包括ケア中核センターを組織、訪問看護ステ、居宅介護支援事業所、教員訪問、学生の実習も実施
	医学部として地域医療・地域在宅看護教育センターを設置
	へき地診療所、訪問看護ステーションとの共同研究
	患者会・家族会に参加、セルフヘルプグループへの関わり
	離島、へき地実習
	高齢者・地域住民に大学に来てもらう、学生との触れ合い
	県下で、地域専門職連携推進会議を設けている
	学部・学科間共同授業によるチーム医療・連携教育
教育方法上の工夫：地域での学習・在宅看護学実習等	シミュレーション・ロールプレイを用いる演習
	老人福祉施設等における高齢者へのライフヒストリー聞き取り
	看護展開、ケアマネジメントの実際：事例演習の多用
	グループワーク、発表会を開催し共有
	障害高齢者の模擬体験
	外部講師の招聘と地域における講演会への参加の推奨
	フィールドワークをとりいれる
	健康祭り等の企画・運営へのボランティア参加の推奨
	在宅療養支援診療所での実習
教員あるいは教育組織	在宅看護学領域の教員2名増
	複数領域で取り組む、既存の組織での取り組み
その他	今後検討する

新たな科目の設定、教育上の工夫として高齢者のライフヒストリーを課題とするなどの取り組みを始めている大学や地域との連携・地域展開に積極的に取り組む大学など、興味深い記述が多数寄せられた。これらの多くは大学所在地の地域特性や住民の

健康問題などに焦点を当てており、特定の科目内ではおさまらないものと考えられる。

c) 超高齢社会に向けた地域在宅における患者と家族の療養生活を支えるための教育における学生の体験

学生の体験としては、115校(75.1%)から回答が得られた。体験の内容を表16-1、体験の形態を表16-2に示す。

表16-1 学生の体験の内容

	具体的な内容	n
体験の内容	認知症患者へのケア	53
	要介護度が高い方へのケア	4
	医療依存度が高い高齢者と家族へのケア	17
	在宅酸素や腹膜透析の機材の借り受け体験	6
	難病	2
	僻地医療	1
	老老介護 認認介護	9
	家族看護の実際	4
	ターミナルケア 看取り	38
	高齢者疑似体験	18
	救急対応	1
	介護予防ケア	13
	嚥下体操	3
	胃ろう指導	4
	高齢者世帯独居高齢者	10
	地域高齢者との交流や健康相談健康教育	17
	コミュニケーション技術	6
	看護技術演習	27
	介護施設でのケア	15
	訪問看護	24
	居宅介護支援事業所ケアマネージャ実習	6
	地域ケア会議	3
	地域包括ケアシステム	1
	退院調整・退院支援	6
	在宅ケア	26

体験内容として多かったのは、「認知症患者のケア」であり、これは老年看護学実習の場として特別養護老人ホームや介護老人保健施設等が多いことによると考えられるが、積極的に経験させるという教育的意図をもった記述も多く含まれていた。次いで、「ターミナルケア・看取り」が38校と多かったが、これには在宅看護学実習にお

いてできるだけ経験させているという大学と演習における擬似的体験にとどまる大学の両方が含まれている。

表16-2 学生の体験の形態

	具体的な内容	n
体験の 形態	学内演習	52
	講義	18
	事例検討会	2
	シミュレーション	13
	模擬患者	14
	実習	58
	同行訪問	17
	パンフレット作成	1
	ロールプレイ グループワーク	16
	フィールドワーク	8
	視覚教材でのイメージング	8
	ボランティア	4
	患者会 家族会	1
	フォーラム講演会	1
	事例展開と訪問計画の作成	15
	現在行ってない 今後の課題 検討中	3
	卒業研究	1
その他	0	

体験の形態としては、実習や学内演習が多く、シミュレーションや模擬患者を導入するということが挙げられていた。

#### d) 超高齢社会に向けた地域在宅における患者と家族の療養生活を支えるための教育としてのビジョンと課題

109校（71.7%）が自由回答欄に記載した。内容分析した結果を表17に示す。

地域との連携や地域に根差す支援のあり方に関するビジョンの提示、多職種連携の重視とその能力開発、在宅看護学領域の教員や指導者の確保・育成の重要性、他領域との連携に関する内容、教育目標・内容・方法に類する内容に大別された。

表17 ビジョンと課題

	具体的な内容	n
地域に根ざした連携づくり	長高齢者社会に対応した研修センター	1
	地域に根差した生活支援	8
	地域資源の活用	8
	大学と地域や臨床などとの連携	13
多職種連携の重視	他学科・他大学との共同授業・講義	2
	他職種連携を把握できる実習体系	4
	職種間連携	21
教員・指導者の確保・育成	在宅看護領域の人員確保	4
	在宅看護領域での人材育成	10
	在宅看護領域の教員育成と確保	6
	看護他領域との連携した講義・実習	9
	実践現場のリーダー育成	4
教育の目的・内容・方法の工夫その他	学生ボランティアの活用	2
	複雑な対象への専門的な理解を促す教育	11
	プロジェクト型学習の推進	1
	実践能力重視のカリキュラム	6
	家族看護学の重要性	4
	療養者家族支援	1
	高齢者理解	3
	イメージを促し学生が理解しやすい教育	12
	教育内容の工夫と強化	12
	問題解決能力の養成	4
	地域に根差した看護実践者の養成	21
課題	講義・実習時間・事例の不足	4
	予算不足	1
	現在のシステムの限界	5
	実習施設の学生の受け入れが不足している	10
	大学全体での課題の共有	1
	在宅医療の地域の受け入れと臨床現場の理解	4
	コアコンピテンシーの明確化	1
	倫理的感応力の育成	7
	ソーシャルキャピタル 協調性と効率	4
	カリキュラム改正による保健分野と在宅看護の分離	7
	学生の理解を得にくい	2
その他	無回答・その他	3

具体的記述からは、ビジョンを明確にもってはいなくてもそのための課題のクリアの仕方に苦慮している状況や在宅看護をどう捉えるか、特に保健師教育との関連での戸惑いなども垣間見られた。教育目標としては、地域に根差した看護実践者の要請を明記した大学も、卒業生の大多数が就職先として大病院を選ぶこともあり、病院から在宅への継続のあり方といった実際的なところから入るあり方も考えていることがうかがわれた。病院における医療モデルと地域在宅における生活モデルのいずれも必要とし

ている自由回答もあり、学部教育でどこから入るのがより効果的かなど、カリキュラムや教育方法上の課題にも関連していることが明らかであった。訪問看護ステーション勤務など在宅看護への興味関心を学生にどのようにもたせるか、キャリアパスの描き方なども含む幅広い教育の必要性も言及されている。

教員や指導者の確保も多くみられたテーマであり、在宅看護が病院における臨床看護に比べ比較的新しい分野であることによるものと考えられた。在宅看護の実務経験をもった教員はきわめて限られており、学生の実践的理解には訪問看護ステーション等から講師を招くなどして不足を補っている。専門性を具えた教員の確保は今後の課題であるが、併せて他の領域との連携の必要性も言及されている。この問題は、保健師教育科目との統合カリキュラムの変更が迫られ、地域看護学から公衆衛生看護学へと名称変更・選択制になったこととも関連している。多くの大学で必修科目として地域看護学を数科目おく、公衆衛生看護学の基礎的な授業科目を必修科目とするなど、統合カリキュラムの考え方を継続しており、それらの大学では地域看護学の教員が在宅看護論等を担当している。在宅看護分野の専門性の深化や実践での発展は、従来の地域看護学の教員による担当では不十分な面が出てきていることは明らかであり、また人数的な限界も大きい。他の看護学領域との連携協力が不可欠という回答が寄せられる理由と考えられる。ある大学からは、「保健師教育科目が選択となり、統合教育の見直しをせざるを得なくなっているが、地域看護学の重要性はむしろ増しており、再検討が必要と考えている。看護系大学協議会での検討もお願いしたい。」という意見も寄せられている。

教員や指導者だけではなく、実習先の確保も課題として挙げられている。訪問看護ステーションや地域包括支援センターは、その特性から小規模な施設が多く、1施設の学生の受け入れ人数は少数にとどまる。私立大学は定員100名を超えるところも多く、実習先の開拓は大きな課題であり、経費も膨らむ。設置後歴史を重ねた大学は、地域におけるプレゼンスも確立し、行政や住民組織の協力関係もできているが、設置後間もない大学はこの分野の実習施設・場の確保に困難をきたしていることが述べられていた。

質的な課題としては、施設間格差の問題とみられる回答があった。実習病院での退院支援がなされていない中で、いかに入院時点から在宅看護の必要性を教えるか、といった問題や施設側の受入れ上の限界が大きく、実習経験が得られにくい、見学に終わってしまうといった問題である。

最後に、大学全体の姿勢とも言うべき課題があった。「学部学科としては、高齢者と接する機会をもちたいが、安全の確保が困難として大学の理解が得られない」という大学がある一方で、自らセンターを立ち上げ、教員が訪問を行ったりして、学生の実習施設としても活用する、在宅看護教育センターを立ち上げ、訪問看護師等の教育を始めている、などの先進的な取り組みをしている大学もあった。これらの取り組みをしている大学はその多くが、GPやCOCなどの助成金を得ていた。





# 資料 質問紙

貴学及び回答者ご自身について、お答えください。

大学名(学部、学科もご記入ください)

設置主体 (1つ選んで○をつけてください)

- ①国立            ②公立            ③私立

1. 貴大学における学部、学科の設置についてお答えください(1つ選んで○をつけてください)

- ①複数の学部をもつ            ②1学部で複数の学科をもつ            ③1学部、1学科である(単科大学)

2. 1学年学生定員についてお答えください

3. 回答者についてお答えください

- ①学長            ②学部長            ③学科長            ④教務委員長  
⑤その他 (具体的に: \_\_\_\_\_)

I. 「超高齢社会に向けて、患者・家族の療養生活を支えるための保健医療福祉の支援のあり方」に関する、貴学における学習のねらいと機会、および実施方法についてお尋ねします。該当する項目に○をつけてください。

1. 「患者の在宅療養支援」に関する学習のねらいと機会についてお尋ねします。

1)平成23年3月に文部科学省から「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会 最終報告」として出された答申において、「学士課程教育においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」が策定されました。以下の項目はそのIV群. ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力のうち、15)と17)の学習成果として示されたものです。

学習のねらいについて、貴学が重点をおいている程度をご回答ください。

3:かなり重点をおいている、2:ある程度重点をおいている 1:あまり重点をおいていない、0:わからない のうち、最も近いものを1つだけ選択□してください。

	【学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標】	3 かなり	2 ある程度	1 あまり	わ か ら な い
	15)地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力 17)保健医療福祉における協働と連携をする能力 に挙げられている学習成果				
1	地域で活動する多様な集団やNPO などの組織、及びそれらの活動について理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	ケアのネットワーク、支援システムの構築の方法について理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	対象者に必要なケアについて、関連機関や支援者と連携・調整する方法について理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	地域の健康を促進し、管理する方法について理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	当事者グループの集団の特質や機能について理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

	【学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標】	3 かなり	2 ある程度	1 あまり	わからない
	<b>15)地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力</b> <b>17)保健医療福祉における協働と連携をする能力 に挙げられている学習成果</b>				
6	地域における組織や当事者グループを看護専門職者として育成し、支援する意義や方法について理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	地域における日常的な健康危機管理の重要性と看護の活動・役割について理解できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	チーム医療、保健医療福祉チーム員の機能と専門性、チーム医療の中での看護の役割について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	チーム医療の中での責務として、情報の共有と守秘義務、対象者を中心とするチーム医療の構築方法について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	チーム医療の中での、相互の尊重・連携・協働について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	チーム医療の中で効果的な話し合いをするための方法について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	在宅医療を推進するために、保健医療福祉機関の連携・協働を含めた看護の活動・役割について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	ケアマネジメントやチームの連携方法について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	継続看護、退院支援・退院調整など、地域の関連機関と協働関係を形成する看護援助方法について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15	病院、保健所、市町村保健センター、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、診療所、学校、職場などとの連携の必要性について説明できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16	同僚や他の医療従事者と安定した適切なコミュニケーションをとる必要性を理解し、指導の下で実践できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17	チームの一員として、報告・連絡・相談の必要性を理解し、指導の下で実施できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2)「講義」「演習」に、非常勤・特別講師等で招いている方と主な依頼内容を教えてください。(複数回答可) 招いている方に☑をつけて、その方への主な依頼内容を具体的にご記入ください。

<input type="checkbox"/>	1. 医師	
<input type="checkbox"/>	2. 歯科医師	
<input type="checkbox"/>	3. 行政保健師	
<input type="checkbox"/>	4. 地域包括支援センター保健師	
<input type="checkbox"/>	5. 訪問看護ステーション看護師	
<input type="checkbox"/>	6. 専門看護師	
<input type="checkbox"/>	7. 認定看護師	
<input type="checkbox"/>	8. 退院調整室/地域連携室等の看護師	
<input type="checkbox"/>	9. 介護福祉士	
<input type="checkbox"/>	10. 社会福祉士	
<input type="checkbox"/>	11. 精神保健福祉士	

<input type="checkbox"/>	12. 理学療法士	
<input type="checkbox"/>	13. 作業療法士	
<input type="checkbox"/>	14. 介護支援専門員（ケアマネージャー）	
<input type="checkbox"/>	15. 薬剤師	
<input type="checkbox"/>	16. 栄養士	
<input type="checkbox"/>	17. 生活相談員	
<input type="checkbox"/>	18. 患者・家族	
<input type="checkbox"/>	19. 在宅療養に関する業者	
<input type="checkbox"/>	20. その他 ( )	
<input type="checkbox"/>	21. 誰も招いていない	

**3) 学習形態としての「実習」についてお聞きします。**

**(1) 「実習」を行っている場をお答えください。(複数回答可)**

1. 病院：地域連携室や退院調整室など      2. 病院：外来  
3. 在宅主治医のいる診療所      4. 保健所      5. グループホーム  
6. 訪問看護ステーション      7. 地域包括支援センター      8. 介護老人保健施設  
9. 特別養護老人ホーム  
10. その他 ( )

**(2) 「実習」において、教員の他に学生の指導にあたる方をお答えください。(複数回答可)**

1. 医師      2. 歯科医師      3. 行政保健師  
4. 地域包括支援センター保健師      5. 訪問看護ステーション看護師  
6. 専門看護師      7. 認定看護師  
8. 退院調整室・地域連携室等の看護師      9. 介護福祉士  
10. 社会福祉士      11. 精神保健福祉士      12. 理学療法士  
13. 作業療法士      14. 介護支援専門員（ケアマネージャー）      15. 薬剤師  
16. 栄養士      17. 生活相談員      18. 患者・家族  
19. 在宅療養に関する業者  
20. その他 ( )

**4) この教育に携わる教員の構成についてお尋ねします。該当するほうを選択して下さい。**

1. 地域看護学もしくは在宅看護学の教員だけで実施している  
 2. 他の領域も協力・分担している

⇒「2. 他の領域も協力・分担している」を選択した方は、以下より関係する全ての領域に☑してください。

- 基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学  
その他 ( )

5) 教育を実施する上での課題等を自由にお書きください。

--

2. ここでは、特に「地域在宅支援における多職種間の協働連携」に関して、貴学における学習の機会についてお尋ねします。以下の選択肢より、該当する項目を選択してください。

1) 職種間連携の学習機会の有無についてお尋ねします

①学習機会を設けている⇒2)にお進みください       ②設けていない⇒3)にお進みください

2) 協働連携の学習機会を設けている大学に、その方法をお尋ねします。該当する項目を☑選択し、具体的な工夫については自由記載欄にお書きください。(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 同大学の医系の他学科と共同で授業(講義・演習等)を行っている
<input type="checkbox"/> 他大学の医系の学科と共同で授業(講義・演習等)を行っている
<input type="checkbox"/> 実習で多職種間の協働連携の具体的な場面を見学する機会をつくっている
<input type="checkbox"/> 訪問看護に限らず、小児や精神など、さまざまな領域における協働連携について工夫している
<input type="checkbox"/> その他、協働連携の学習機会を作っている

3) 学習機会を設けていない大学に、その理由をお尋ねします(1つのみ選択)

①学士課程での学習の必要性を感じていない       ②必要性を感じているが、実施が困難である

⇒②を選択した方は、その理由を具体的にお教えください。

II. 学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標で、以下の学習内容が示されました。貴学で授業(講義・演習・実習)に含んでいる内容に○をつけてください。(複数回答可)。

学習内容	1 含まれている	2 含まれていない
チーム医療		
保健医療福祉チーム員の専門性と相互の尊重		
チームのなかでの看護専門職の役割		
リーダーシップ		
カンファレンスの運営方法		
情報の共有		
継続看護		
在宅医療と社会制度		
在宅医療推進と看護活動		
保健医療福祉機関の連携・協働		
ケアマネジメント		
家族を含めた対象者中心の連携		
退院支援・退院調整		
地域包括支援センターとの連携		
訪問看護ステーションとの連携		
地域保健・産業保健・学校保健との連携		
個人・グループ・機関との調整		
ケアネットワークづくり		
支援システムの構築		
地域組織活動		
地域ケアの体制づくり		

**III. 超高齢社会に向けた地域在宅における患者と家族の療養生活を支えるための教育に関する現状、今後の展望や課題について自由にお書きください**

1. 貴大学では、超高齢社会に向けた地域在宅における患者と家族の療養生活を支えるための教育として、どのような取り組みをしていますか？どのようなことでも結構です。ご自由にお書きください。

2. 超高齢社会に向けた地域在宅における患者と家族の療養生活を支えるための教育において、貴大学において学生は具体的にどのような体験をしていますか。例えば、認知症患者へのケア、看取りなど(そのほかのことでも具体的にお教えてください)について、学生が体験していることをお教えてください。体験の内容に合わせて、体験の形態(たとえば、学内での演習、シミュレーション、模擬患者、実習で、など)についても詳しくお教えてください。

3. 超高齢社会に向けた地域在宅における患者と家族の療養生活を支えるための教育として、貴大学でお考えになっているビジョン、課題と考えていることを自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

